

# 重度心身障害児施設の入所児童と援助者の愛着関係

—援助者からみた児童との愛着関係—

Attachment relationship between children with severe motor and intellectual disabilities and the caring staff

○長谷川福子<sup>1</sup>・渡辺修宏<sup>2</sup>

Fukuko Hasegawa, Nobuhiro Watanabe

茨城大学<sup>1</sup>・国際医療福祉大学<sup>2</sup>

Ibaraki University, International University of Health and Welfare

Key words: children with severe motor and intellectual disabilities, attachment relationship

## 目的

近年、自閉性障害を有する児童が両親以外の養育者や他者と愛着関係を築くことが示されている(別府, 1997)。以降、自閉症や発達障害を有する児童の愛着に関する研究は多く行われており、障害を有していても養育者や学校の教員と愛着関係を構築することが可能であることが示されている。しかし、重度心身障害児(以下、SMID児)の愛着反応や愛着関係の構築を問題とした研究は少なく、彼らがどのように、そしてどのような愛着関係を構築するのかについてはいまだ十分に明らかではない。そこで、本研究は、重症心身障害児施設で働く職員に、SMID児がこの職員たちに愛着関係を構築するのか、またそれがどのような関係性なのかについて聞き取りを行い、SMID児の愛着について調べた。

## 方法

**インタビュー協力者:** A 県の重症心身障害児施設に勤める男性職員 1 名に協力を得た。この男性は当該施設に就職してから勤続 11 年目であった。

**インタビュー場面:** プライバシーを保護する目的で面接内容が外部に漏れないよう環境を設定し、第 2 著者が所属する大学研究室内でインタビューを行った。さらに、感染症予防のために、インタビュー時はインタビュー協力者と筆者らが互いに 2m 程度離れるよう着席した。インタビューは約 1 時間 30 分で終了した。

**インタビュー形式:** 半構造化面接の形式でインタビューを行った。すなわち、あらかじめ準備した質問に加えて、インタビュー中に筆者らが関心を抱いた点に関する質問に回答して頂いた。構造化された質問を Table 1 に示した。

Table 1

List for the contents of the interview

	内容
1	施設の概要
2	入所している SMID 児の属性や生活
3	職員の方々の属性や SMID 児への対応の仕方
4	SMID 児の愛着反応と、愛着に関わる問題

## 結果

インタビューの結果、SMID 児の愛着に関して、①職員が SMID 児と愛着関係を築けたと感じた事例、②愛着関係と言えずとも、SMID 児が職員を弁別して遊び要求行動や注意獲得行動を示すこと、③学齢期までの家族や特別支援学校の教員との関係性がその後の SMID 児の反応に影響すること、④愛着形成が難しかったと感じる事例、⑤愛着関係の構築が難しい要因として障害に基づく反応表出の程度が考えられること、⑥愛着関係を形成するために取り組んでいることの 6 点について聞き取ることができた。

以上の内容から、SMID 児との間にも愛着関係を築くことは可能であるが、構築可能かどうかは障害に基づく反応表出の程度に大きく左右されるため、愛着関係が構築できる事例もあれば、そうではない事例もあることが明らかになった。障害を理由とした反応表出の程度が愛着関係構築の要因の一つとして挙げられたが、SMID 児の反応表出は短期間、高頻度の関わりによって増大させることができると協力者は考えており、反応表出が少ない SMID 児との関わり方を工夫し、愛着関係構築へ取り組んでいることが示された。

## 考察

本研究により、SMID 児との愛着関係を構築することが可能であることが示された。さらに、愛着関係を促すための取り組みが行われていることも明らかになった。SMID 児の愛着に関する研究が多くはないことから、この結果は非常に有益な示唆を与えるだろう。しかし、本研究には問題点がある。それは、本結果は本研究に協力して頂いた職員の主観に基づいた結果であるため、愛着関係が構築できたかどうか客観的なエビデンスを示すことができないことである。この問題点から、今後は、職員と児童との関わりを実際の場面で観察し、相互の反応がどのように影響しあい、反応が持続され、愛着関係だと感じられているのかを明らかにする必要があるだろう。

## 引用文献

別府哲 (1997). 自閉症児の愛着行動と他者の心の理解 心理学評論, 40, 145-157.